

特別展 「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」開催中！

この度、刊行しました絵本のパネル展を開催しております。

- 期 間 令和6年6月3日(月)～7月19日(金)
- 場 所 別海町郷土資料館附属施設加賀家文書館



夏休み 奥行臼トロッコセンターのお知らせ！

夏休み期間中の毎週日曜日、町指定文化財「奥行臼駅」の線路を利用したトロッコ乗車体験の提供を行います。足こぎトロッコの他、エンジン付トロッコも運航予定です。料金は無料ですので、お気軽にご参加ください。



- 日 時 7月28日(日)～8月18日(日)
の毎週日曜日(計4回)
午前10時～午後2時
- 主 会 場 旧奥行臼駅(奥行16番地29)
- 内 容 ①奥行臼駅トロッコ乗車体験 ②乗馬体験(旧奥行臼駅通所横広場)
③鉄道模型展&国鉄標津線写真展(奥行会館内)～7/28・8/4・8/11のみ。
- そ の 他 ①旧奥行臼駅前は駐車禁止です。お車は国道沿いの奥行駐車場または、奥行会館駐車場に止めてください。
②乗馬体験は馬の体調により時間を短縮する場合があります。

サマースクール

～大昔のべつかい古代人に挑戦しよう・勾玉づくり～

古代の人々の生活に挑戦し、その知恵と工夫を学んでみませんか。

- 日 時 令和6年7月31日(水)
午前の部 10:00～12:00
午後の部 13:30～15:30
- 内 容 ①お話 大昔のべつかい
②体験活動 勾玉づくり
- 対象者及び募集人員
- 午前、午後の部ともに10名(小学校以上親子参加可)
- 参加申込



7月1日(月)から受付開始。電話にて、お名前・電話番号を連絡ください。

ヤチカンバ見学会を実施しました。

6月9日（日）参加者10名により実施しました。はじめに郷土資料館にて、戸田博史（当館文化財担当主幹）からヤチカンバの変遷。深津恵太氏（北方環境研究所研究員）から湿原内の様子の説明を受けました。その後、現地に移動してヤチカンバの観察を行うとともに、深津氏から西別湿原のブルトとブルトに自生する植物についての説明を受けました。なかなか、入ることができない湿原内を歩き、多くの植物を観察しヤチカンバの生息状況などの理解を深めることが出来ました。



ふるさと講座・歴史系第2回目「別海町歴史文化遺産を巡る（旧国鉄標津線跡編）を実施しました。

6月29日（土）参加者7名にて開催しました。見学・解説した場所は、「旧国鉄標津線平糸駅跡」「旧国鉄標津線上春別駅跡」、「別海町鉄道記念公園・記念館」（旧西春別駅）、「旧国鉄標津線光進駅跡」、「旧国鉄標津線泉川駅跡」で、標津線の成り立ち、各駅の当時の設置に関わるエピソード、保存の経緯などを説明しました。

泉川駅跡では、駅舎や市街地が形成されていたが、現在は、雑草が生い茂る原野となっているなど、その変わりように時代の流れを感じる事が出来ました。現地での詳しい説明により、町歴史文化遺産に対する理解が深まりました。



マンモスゾウの臼歯化石～国内で15個目の大発見～

令和6年4月26日（金）、野付半島外海にて、ホタテ漁をしていた安達隼人さん（尾岱沼）が、マンモスゾウの臼歯化石を発見し郷土資料館に寄贈されました。

寄贈された化石の正式な鑑定を滋賀県立琵琶湖博物館名誉館長の高橋啓一氏に依頼し「右上顎第1大臼歯」であることがわかりました。国内で15個目、根室海峡では6個目、野付半島外海で4個目（当館所蔵）となりました。

現在常設展示室で公開中ですので、貴重な資料をぜひ、ご覧ください。



別海町郷土資料館だより No.300

発行日 令和6年7月1日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町30番地
電話 0153-75-0802（FAX兼）

編集後記

20年振りの大発見となりましたマンモスゾウ臼歯化石ですが、漁業者のおかげで町内（野付半島沖）から4個目の発見となりました。国内で最も多く発見されている場所が根室海峡・野付半島沖ということで、氷河期には野付半島もなく、樺太・北海道・国後島は陸続き、そんな大地にマンモスが歩いていました。